

平成 28 年度

# 長野県循環型社会推進大会 開催レポート

『もったいない』を大切に、ごみ減量日本一！～美しい信州を次世代へ～

日時：平成 28 年 10 月 21 日（金） 13:30～16:30

場所：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール

## プログラム

### ● 開 会

・主催者あいさつ（長野県環境部長 関昇一郎、信州豊かな環境づくり県民会議会長 鶴飼照喜）

### ● 循環型社会形成推進功労者知事表彰

### ● 事例発表

発表者	テーマ
長野卸売市場協同組合	食品を大切に：市場一体となって生ごみの減量化を始めとした『環境型社会』に挑戦 ～日本一美しい市場を目指す～
畑八開発株式会社	建設工事から排出される廃棄物の再生事例
特定非営利活動法人 千曲市環境市民会議	ずくを出して、環境をよくしよう！

### ● 講 演

演題 ゴミにもランキング

講師 諏訪東京理科大学工学部

教授 板橋 正章氏

### ● パネル展示

- ◆ 長野県
- ◆ 信州豊かな環境づくり県民会議
- ◆ 信州リサイクル製品普及拡大協議協会

# 開会あいさつ

長野県環境部長 関 昇一郎

信州豊かな環境づくり県民会議会長 鵜飼 照喜

## 関部長



○御承知のとおり平成26年度の県民1人1日あたりのごみ排出量は838gと、ごみ排出量少なさランキングで全国1位となっております。本日お集まりの皆さま方にも、生ごみの水切り、マイバッグの持参、食べ残しはしないなど、誰もができる取組を進めていただき、ごみ減量日本一が続きますよう御協力をお願いいたします。

○国の推計では、平成25年度には632万トンの食品ロスが発生しています。これは、世界全体の食糧援助量のおよそ2倍に匹敵し、また、国民1人1日当たり約136グラムの食品ロスが発生していることになり、これはお茶碗約1杯分のご飯の量に相当します。

○県では、平成22年度から食品ロス削減を目標とする「食べ残しを減らそう県民運動」を実施しております。小盛メニューの提供や持ち帰り希望者への対応などを行う飲食店、ばら売り、量り売り等を行う小売店を協力店として登録する取組や宴会での料理の食べ残しを出さないように呼びかける「宴会たべきりキャンペーン」の取組を行ってきたところです。

○この「宴会たべきりキャンペーン」ですが、現在松本市で取り組まれている「残さず食べよう！30・10（さんまるいちまる）運動」の取組が、名称と取組の関連性で大変にわかり易いということで全国的に広まっております。県としてもこの名称を取り入れ「残さず食べよう！30・10運動」に変更し、今後県民の皆様とともに一層食品ロス削減に取り組んでまいりたいと考えております。

## 鵜飼会長



○9、10月の2か月間にわたり、環境負荷の低減の助けとなる商品・サービスの普及を図り、環境に配慮した消費生活の実践を呼びかける「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施しております。

○例えば、簡易包装や詰め替え製品を選ぶなど、身近なことからごみの減量に取り組んでいただきますよう、引き続き御協力をお願いいたします。

○信州豊かな環境づくり県民会議は、長野県の美しく豊かな環境を保全し、その恵みを将来の世代に継承していくために、県民・事業者・関係団体・行政など、様々な主体の参加と連携により環境美化運動や情報提供等に取り組んでおります。

○循環型社会の形成におきましても、各主体が、それぞれの役割を踏まえ相互に協力し、ごみの減量化などに取り組んでいくことが重要です。

○本日御参加いただきました皆さまにおかれましては、この大会で、3Rについて学び、自らが率先して行動いただきますこと、また、まわりの皆様へも3Rの必要性や実践方法などを伝えていただきますことをお願い申し上げます。

# 循環型社会形成推進功労者表彰式

「循環型社会形成推進功労者表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成28年度は、事業者の部門で2者、個人・グループ・学校の部門で4者、その他の部門で2者の計8者の皆様へ表彰状が授与されました。

(敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	長野卸売市場協同組合	長野市	日本一美しい市場を目指し、組合の全事業所が一体となり、ごみ分別のルール化をはじめ、生ごみ減量化や紙類の再利用、再生利用の徹底等に率先して取り組み、13年間で可燃ごみの排出量を3割以下にまで削減した。
	畑八開発株式会社	佐久穂町	総合建設業を主に、産業廃棄物の収集運搬・処分業も営み、廃棄物の適正処理に努めている。限られた資源の有効活用を図るため、再生資材の利用・普及活動を通じて、循環型社会の構築に積極的に取り組んでいる。
個人・グループ・学校 (学校)	特定非営利活動法人千曲市環境市民会議	千曲市	環境問題に関心のある市民が中心となり、循環型社会形成推進のため、食品トレイ・レジ袋削減や生ごみ堆肥化、環境教育の推進等、活動は多岐にわたり、千曲市等関係機関と連携し、地域の環境活動推進に貢献している。
	杉浦 正典	松本市	多年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等、廃棄物の減量化に取り組み、住民の模範となっている。
	須藤 洋	松本市	多年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等、廃棄物の減量化に取り組み、住民の模範となっている。
	滝澤 武	岡谷市	多年にわたり地区衛生自治会長及び岡谷市衛生自治会連合会役員として、ごみ減量や環境美化活動等に取り組んだ。家庭ごみ等の有料化に際し、率先してごみステーションでの分別指導を行う等、住民の模範となっている。
その他	徳武 恒男	長野市	長野市職員として清掃センターで一般廃棄物の適正処理業務に従事。焼却施設の安全で安定的な稼働に尽力し、職員の模範となっておりとともに、豊富な知識と経験を生かし後進の指導、育成にも積極的に取り組んでいる。
	松田 栄一	長野市	西部衛生施設組合職員、長野市職員として、し尿処理業務に従事。処理施設の良好な維持管理や改修等に尽力し職員の模範となっておりとともに、豊富な知識と経験を生かし後進の指導、育成にも積極的に取り組んでいる。

【受賞者、鶴飼会長、関部長での記念写真】



## 事例発表

テーマ / 「食品を大切に：市場一体となって生ごみの減量化を始めとした『環境型社会』に挑戦～日本一美しい市場を目指す～」

発表者 / 長野卸売市場協同組合 事務局長 宇治 孝治 氏



○長野卸売市場は、昭和 63 年の業務の開始から約 30 年、水産と青果の 2 社ずつの計 4 社が中核となり、その下に仲卸会社が 25 社、関連会社 50 社の計 80 社ほどが市場に入って活動しています。

取扱品目は、青果と水産がメインですが、肉も扱い、生鮮 3 品の食品の総合市場となっており、この生鮮 3 品を中心に約 650 億円の事業を展開しています。

○長野市が平成 9 年から開始した「ながのエコ・サークル」活動の考え方で仕事をやろう、一番の基本はごみの減量、いかにごみを分別するかということが基本、ここがきちんとできれば、いろいろと発展していく、そして、最終的には「ゼロ・エミッション」、資源を使いこなすというところまで達成しようということで、日本一美しい市場を目指し平成 15 年から取組を始めました。

○これに先立ち事務局が真っ先に 4 つの取組を行いました。①長野地方卸売市場から排出しているごみの量と内容の実態調査、②ごみ処理回収業者を 1 社に絞り込む、③独自の廃棄物分別回収のルール化、④数量把握のための大型計量器の設置です。

○このうち、①では、実態調査の結果、ごみの 65% は紙類であり、市場として取り組まなければなりません。また、③では、廃棄物分別回収のルールを徹底していこうということで、非常に

細かい分別を定め、その分別カレンダーを作成しました。

- 発泡スチロールで再資源化ということで、発泡スチロールからリサイクル商品のものさしを作りました。市場が長野市の小学校3年生の社会見学のコースになっており、その見学者にもものさしを提供していますが、大変喜ばれています。また、私どもが廃棄したごみから、オリジナルの長野市場ロールと書いてあるトイレトーパーを作って普及拡大をしているところです。
- 活動の問題点として、80社が一つの方向に向かうということは、非常に時間とエネルギーが必要でありまして、総論賛成、各論反対という部分が何年か続きました。大変苦勞した部分でありますけれども、それを耐えてやってきて、今日までなってきたということです。
- 活動の成果として、平成25年の4月に「ながのエコ・サークル」ゴールドランク認定を受けました。こういう協同組合で認定を受けたのは初めてと聞き、非常に大きな励みとなり、活動の歯車を回した大きな要因にもなっています。
- 可燃物については、平成15年2,267,930kgあったものが平成27年628,019kgと、約3分の1以下に減らすことができました。リサイクルについても平成27年81%の大台に乗っており、さらにごみを減らし、リサイクル率を上げていくことで、切磋琢磨しているところであります。
- 「日本一美しい市場」の実現に向けてということで、富士山の頂上から見れば今は8合目くらいかなと思っております。今回の表彰を大変うれしく思っておりますし、これを糧にして頂上に向けて切磋琢磨して継続してやっていきたいと思っております。

## 事例発表

テーマ / 建設工事から排出される廃棄物の再生事例

発表者 / 畑八開発株式会社 取締役総務部長 内藤 義成 氏



○畑八開発株式会社は、南佐久郡佐久穂町にあり、建設業をメインに、それに関連して廃棄物処理業等を行っています。

○道路の舗装面をはぎ取ったものがどこに行っているのか知っている方は意外と多くないかもしれません。どこへ行っているのか、捨てているのか。また、山の中で工事をすることもあります。林道や新設の道路、砂防ダムは山の中の仕事ですから、まず木を切らないといけません。さてこの木をどこに捨てているのか。今日はそんな話をさせていただきます。

- まず、再生事例1としてアスファルト廃材の再生です。先ほど道路の舗装をはぎ取っている写真がございましたけれど、スタートは建設工事現場です。そこから収集運搬し、持ってきた廃材を破碎しましてふるい分けをします。そして、再生材を作り上げます。

○この再生材は、他の材料等と一緒に加熱、ミキシングを当社のプラントで行い、製品が出来上がるわけです。こういった製品を再生合材と呼んでおり、最終的には、また工事現場へと戻ります。これは非常にきれいな絵でして、スタートもゴールも建設現場です。生まれたところにまた戻ってくる究極の理想の形です。アスファルト廃材の場合はこういう流れとなっています。

○2番目は伐採材の再生です。山の中でも工事をすることがありますが、伐採材が出てきます。これもほぼ似たような流れで、私どもの木材専用の工場でする分けをして木材チップにします。たまに木材チップだけで販売する場合がありますけれど、たいていはこれを処理施設に持っていき、いわゆる堆肥にします。我々は持っていくところまでで、別の業者が堆肥にします。堆肥にしてゴールは農地です。

○もう一つ事例がありまして、木材チップをほかの材料と混ぜて、堆肥にして、我々の建設工事現場に戻ってくるパターンです。植生基材、吹き付け工の有機基材としてということです。

○法面があって、砂や岩があるところに、緑を育てようというときに使います。堆肥を吹き付けるわけです。堆肥だけではだめですので、植物の種も一緒に吹き付けを行います。そうしますと、早ければ半年、1年後に地肌が出ていた法面が緑に覆われるということです。最初の事例と同じ、スタートが建設工事現場から始まりゴールも建設工事現場という理想的な形です。

○限られた資源の有効活用を図るため、今後とも頑張って循環型社会の構築に貢献していきたいと思えます。

---

## 事例発表

テーマ / ずくを出して、環境をよくしよう！

発表者 / 特定非営利活動法人千曲市環境市民会議 代表 柿崎 久 氏

---



○平成 16 年 10 月千曲市が環境基本計画を作ろう、市民の皆さんに作ってもらおうと公募があり、20 人の市民の皆さんが手を挙げて、基本計画市民委員会というものができ、平成 18 年 4 月に千曲市環境基本計画が完成しました。

計画を作っただけで終わりにせず市と一緒に活動をしていくための核となる千曲市環境市民会議というものを同年 9 月末に立ち上げ、平成 24 年 11 月には、特定非営利活動法人化しました。

以来、各種活動を実施し、毎月一回の定例会議を開いています。

○千曲市環境基本計画は 5 つの基本方針から成り立っています。

①市民みんなが主役のまち、②自然豊かなふるさと、このネーミングも市民委員会のメンバーが考えて作りました。今回は、循環型社会形成のためですから、基本方針③『もったいない』を大切にするくらし、⑤豊かな心をはぐくむ環境学習の 2 つの柱の一部を紹介します。(5 つの基本方針については、資料を参照)

- まず、レジ袋削減活動です。一つは店舗前啓発で店舗前に毎月1回、私どもの会員が立ちます。会員だけではなくて、会員以外の団体の方にもお願いをして一緒に立ちます。それからマイバッグの持参率調査をやっており、毎年1店舗は開店から閉店まで、朝の午前9時半から夜の午後8時まで調べます。ほかの店舗は、1回1時間から2時間やって平均を出し、そういったことでマイバッグ持参率の調査をします。
- 千曲市のマイバッグ持参率の推移は、平成16年当時、環境基本計画を作ろうとした頃は10%から15%くらいでしたが、それから毎年、こういった運動により、年々上がってきて、平成27年度末の3月で市内の全店舗の平均は65%になりました。
- それから食品トレイ使用削減活動をしています。平成18年12月大型店10店舗、小売店18店舗で82品目について、トレイを使わないようにしようという協定を締結しました。また、トレイの価格の啓発は、トレイが一体原価がいくらかかっているのかマジックで書いて展示をします。そうすると、「100円、150円もするの」と価格を見て皆さんびっくりします。ですから、その分皆さんがお金を払っているのだから、できるだけトレイを使わないようにするという事は、消費者にとって得になると啓発しています。
- それから環境教育です。平成21年に市内の保育士さんのプロジェクトチームを作りまして、環境絵本を作りました。その環境絵本「てんぐやまのあんずまる」を市内保育園に配布しました。
- こども環境教室（こどもエコクラブ）、これは上山田地域でやっているのですが、年間計画を立て、4月からやっています。そのうち、「お味噌をつくろう」は、子供たちに昔からある食べ物であるお味噌を作ることで、作ることの難しさや苦勞を知ってもらい、残しちゃいけない、もったいないということをいろいろ勉強してもらっています。

# 講演

テーマ / ゴミにもランキング

講師 / 諏訪東京理科大学工学部 教授 板橋 正章 氏



## ◆講師プロフィール◆

1961年 東京都日野市生まれ(当時は南多摩郡日野町)  
1989年 東京理科大学大学院理工学研究科博士後期課程  
機械工学専攻修了(工学博士)  
同年 東京理科大学基礎工学部材料工学科助手  
2011年 諏訪東京理科大学システム工学部機械システム工学科教授

○変わった話をしますが、まず、ごみという言葉を使いたくありません。捨てているのではなくて、生産者に資源をお返しするという風に考えてほしいので、分かりやすくこんなタイトルをつけています。

○「原材料はマーケットで汚染される」。あるメーカーでリサイクルを担当せよと上司から命令を受けたグループのリーダーの言葉のようです。メーカーさんに言わせると、工場の敷地の外へ出たら、それは即汚染されたものになってしまいます。それを回収して、原材料として何か作る、つまり、リサイクルの原材料はごみであり、そのごみをどうやって品質管理するのかという話です。

○例えば、タッパー等に使われているポリエチレンを原料とした粒状のペレットについてです。このペレットはわずかながら水すら吸収してしまう性質があるため、工場内でも非常に厳しい管理がされています。そんなペレットが商品として、一旦外に出た後、それを再び回収し原材料として商品とした際に、当初と同じクオリティの商品が作れるのかということです。

○世の中には、ごみをちゃんと洗って出す人もいます。家でコンビニのお弁当を食べたら、きちんと洗って、資源物として出しています。洗って、分別して出すことで、リサイクルにつながっていると思っている人が今の世の中ではほとんどです。しかし、残念なことに、いくらきれいなごみを出したとしても集積所に行ったときに、ちゃんと洗っていないごみと触れてしまったら、もうだめです。

○皆さんにお願いすべきは、瓶、缶はちょっとすすいでほしいということです。実はガラス瓶というのは、一番リサイクルに向いています。中身が多少残っていようが、ラー油、ごま油の瓶で、瓶の中身に油がついたままであっても大丈夫です。ガラス瓶のラベルを一生懸命洗って落とそうとする人がいますが、あれはまったく無駄です。ガラスが溶けるときの温度で紙や中身の成分は全部燃えてとんでいってしまいます。それで、きれいなガラスが再生できるということは、なかなか知られていません。

○リサイクルという掛け声の下で、分別しているわけですが、分別したら終わりと思っていたら先に進みません。分別より、そろそろ先へ進まなければいけない時代に来ていると思います。ちゃんと分別は、できるようになりましたので、次は、ちゃんと洗ってくれという話を進めていかないと良いごみになりません。資源として使えるごみになりません。ごみという言葉を使わないで、再生資源という言葉を使ってほしいと思います。そういうことをやらないと残念ながら本当のリサイクルに結びついてはいません。

○今後皆さんがどうやって、ごみではなく、再生資源を各家庭から出してもらえるようにするのかというのが、これからの環境問題の解決の第一歩かなと思っている次第です。

---

## ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、信州リサイクル製品普及拡大協議会

---

「“チャレンジ 800” ごみ減量推進事業」、「レジ袋削減県民スクラム運動」、「食べ残しを減らそう 県民運動～e-プロジェクト～」のパネル展示を行いました。

